

2018年の年頭に際し、わが国の最高法規に書かれた「ウソ」を訂正するべく、私案を考えてみた。そして、東京の街を歩く高校生1000人に、その賛否を尋ねてみたところ、1、2項までは、678名の諸君が賛成してくれた。

3項については、意外にも国際貢献は必要だという意見が100名近くあった。

4項については、賛成は8名という結果だったが、災害派遣等は別組織にして、貢献したい、という貴重な意見が30名ほどあった。

日本国憲法 第9条 「覇権的侵略戦争の否認、不戦の誓い」

1. 日本国民は、国際平和を誠実に希求し、悪しき帝国主義時代の覇権的侵略戦争を認めない。武力を伴う国際紛争については、ここに永久に中立であることを宣言し、不戦を誓う。

ただし、他国による恫喝や国家主権の侵害はこれを容赦しない。

わが国領土や国民の生命・財産を侵害するような武力行動や侵略的行為、その準備に対しては、武力をもって排除する。

2. 前項の目的を達するため、最高の秩序と倫理観をもつ軍隊として、自衛隊を保持する。安全保障条約を締結した友好国との軍事的交流はこれを妨げない。

3. 自衛隊の他国への派兵は、これを禁

## 『憲法訂正』

文 白石茂樹 text by Shigeki Shiraishi

ずる。ただし、自国民保護の目的の場合はこの限りではない。

また、当事国の要請による災害支援の場合は非武装のうえ派遣する。

4. 本条における自衛隊の崇高な使命を国民全体で支えるため、成人した国民は、1年間の従軍義務を負う。

世の中、戦争を好む人などまづいない。ただ、世界には、民族や宗教による衝突、貧困や飢餓の打開、為政者の圧政など、日本人の想像を超えた「争いの種」が存在する。また、未だ帝国主義時代の覇権的外交を引きずり、小国を威嚇する核保有国が存在することも現実である。資源に乏しく、国土の狭いわが国が、将来にわたりその争いの外にいる保障はよもやない。

大事なものは、漠然と平和を願うのではなく、必死の努力を積み重ねて維持していくことだ。「そのためにはどうしたらよいか?」「軍隊は必要ない!」と答えた高校生は、1000人中、わずか18名だ。

分厚い模範六法を広げ、そこに60年以上も虚偽表示されてきた憲法9条について、「ウソだとは思いませんか?」と尋ねてみた。なんと900名以上が「ウソですね(笑)」と即答した。

なぜ、ただのウソを単純に訂正できないのか?

WHY? JAPANESE PEOPLE!



### Profile

安全保障・教育評論家／1964年、福岡生まれ。関西学院大学法学部卒業、横浜市役所、議員秘書を経て現職。著書に『概説戦後学校教育』『武徳教育のすすめ』。



美楽での連載を束ねた百念撰集  
『雲涯蒼天』  
定価700円  
Amazonにて販売中